

報告とお礼 11.30 「原発つづけるための乾式貯蔵 NO ! 全国集会@高浜 ~使用済み核燃料の行き場はないぞ！～」 (高浜全国集会と略) に 400 人が結集

使用済み核燃料の乾式貯蔵は、 電力会社、政府の原発延命策

原発を運転すれば発生する使用済み核燃料は、発生直後には、膨大な放射線と熱を発しますから、燃料プールで水冷保管しなければなりません。そのプールが満杯になれば、原発を運転できなくなるため、電力会社や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ることに躍起です。

例えば、伊方原発3号機では、6年後に燃料プールが満杯になり、原発を停止せざるを得なくなるため、去る7月1日に500トンの乾式貯蔵の運用を開始しました。これによって、原発の運転可能期間は29年に延びました。また、高浜原発では、あと3年でプールが満杯になるため、460トンの乾式貯蔵を画策しています。これを許せば、原発は10年近く延命します。

このように、乾式貯蔵を許すことは、原発の運転継続を許すことになります。逆に、乾式貯蔵を阻止できれば、原発を停止させることができます。乾式貯蔵阻止は、原発全廃への要です。

使用済み核燃料の搬出先・再処理工場は うごかない

関電などの電力会社は、乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の搬出先として再処理工場の稼働を願望していましたが、昨年8月、日本原燃が27回目の再処理工場の完成延期を発表したため、この願望は破綻しました。

再処理工場には、耐震補強が必要な個所が多数ありますが、その多くは、使用済み燃料を用いたアクティブ試験によって、高濃度の放射性物質で汚染されていて、人が近寄れず、工事は至難です。また、発生する高放射線廃液のガラス固化もトラブル続きで、再処理工場の完成は全く見込めません。乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の行き場はないのです。

それでも関電は、乾式貯蔵施設の建設を画策しています。原発延命のための乾式貯蔵であることは明らかです。

11.30 高浜全国集会で「乾式貯蔵 NO !」

乾式貯蔵問題で初の全国集会は、3年後に燃料プールが満杯になる高浜原発の立地・高浜町で、11月30日に開催されました。

高浜原発周辺での前段集会には 200 人

11月30日11時、高浜原発を臨む音海展望台は、京都、福井、大阪、滋賀、兵庫、奈良、愛媛、香川、首都圏などから大型バス、マイクロバス、自家用車が次々に到着し、幟や横断幕を持つ人々で溢れました。(この日は、定期点検中であった運転開始後51年の超老朽原発・高浜1号機の再稼働も発表されました。)

参加者は、「使用済み核燃料の行き場はないぞ！」「原発を延命させる乾式貯蔵 NO !」「老朽原発うごかすな！」「原発全廃！」「自然エネルギーに転換しよう！」の意思を確認し、シュプレヒコールの後、高浜原発北ゲート前までデモ行進し、ゲート前で約40分、断固とした抗議行動を展開しました。途中、関電に申し入れを行い、参加者の意思を関電に突きつけました。

高浜町文化会館での本集会には 400 人

関電の「原発延命策=乾式貯蔵施設の原発敷地内設置」阻止を目指す11.30高浜全国集会(「老朽原発うごかすな！実行委員会」主催)には、原発周辺での前段集会参加者に加えて、愛知・岐阜から大型バスで駆け付けた皆さん、高浜原発周辺の自治体などからの皆さんのが結集し、「原発住民運動福井・嶺南センター」の戸嶋久美子さんの司会によって、13時に開会しました。

集会では、まず、木原壯林(「若狭の原発を考える会」「老朽原発うごかすな！実行委員会」、元日本原子力研究所

研究員)が「使用済み核燃料の行き場はない、乾式貯蔵は電力会社、政府の原発延命策」と題して、スライドを使って解説しました。

これを受け、主催者を代表して中島哲彦さんが「使用済み核燃料プールが満杯に近づき、原発延命のために乾式貯蔵が画策されている。原発からの脱却と自然エネルギーへの全面転換を目指す」と本集会の意義を強調しました。

これに、原発が立地し乾式貯蔵が進む各地から報告が続きました。

女川原発で来年5月にも着工が画策されている乾式貯蔵施設の建設阻止を闘う「みやぎ脱原発・風の会」の館脇章宏さんからのビデオメッセージ、高浜町に住む東山幸弘さんからの高浜原発での乾式貯蔵の策動に関する報告、6年後に燃料プールが満杯になる川内原発の乾式貯蔵に抗して闘う「ストップ川内原発！3.11 鹿児島実行委員会」の向原祥隆さんのビデオメッセージ、青森からは、「核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会」の中道雅史さんが、原発延命のための六フッ化ウラン、使用済み核燃料の青森県への搬入阻止を訴えました(中道さんが体調不良のため、「再稼働阻止全国ネットワーク」のけしば誠一さんがメッセージを代読)。

「上関の自然を守る会」の高島美登里さんは、ビデオメッセージで、使用済み核燃料の中間貯蔵施設を拒否し、貴重な生態系を守る決意を寄せられました。

主催・実行委員会の橋田秀美さんのカンパアピールを挟んで、全国各地からの報告が続けられました。

柏崎刈羽から「規制庁・規制委員会を監視する新潟の会」の桑原三恵さんは、ビデオメッセージで、新潟県民の大多数が反対する柏崎刈羽原発再稼働の容認を表明した花角知事を糾弾し、政府、県、東京電力に再稼働撤回を求める決意を述べました。能登の珠洲市から駆け付けた北野進さん

(「志賀原発を廃炉に！訴訟原告団」団長)は、パワーポイントを使って、志賀原発で発覚した法令違反を糾弾し、60人の原告による新たな志賀原発差止め訴訟(第3次訴訟)について報告されました。愛知・岐阜からは10数名が登壇し、代表して「老朽原発40年廃炉訴訟市民の会」の草地妙子さんが、老朽原発高浜1、2号機、美浜3号機の運転期間延長認可などの取り消しを求めた仮処分裁判抗告審で名古屋高裁金沢支部が下した決定(11月28日)の不当性を訴えました。「ノーニューカス・アジアフォーラム・ジャパン」の佐藤大介さんは、民衆の力で原発ゼロを達成した台湾の反原発運動について報告しました。「オール福井反原発連絡会」の山本雅彦さんは「美浜原発の新增設を許さない！」特別アピールを行いました。

集会の終盤、プラカードアクションの後、本集会には、青森から鹿児島までの23団体から連帯のメッセージが届き、プログラム冊子に収録されていることが紹介されました。

最後に、集会宣言と高浜町への申入れを、参加者全員の万雷の拍手で採択し、町内デモに出発しました。

約1時間のデモは、沿道の町民の注目を集め、各所で激励もいただきました。デモ隊に何度もありがとうと頭を下げる女性の姿が印象的でした。

なお、11.30高浜全国集会の様子は、STOP原子力★関電包囲行動のたぬき御膳さんがYouTubeでご紹介下さっています。是非ご覧ください。

<https://youtu.be/wbCI41UkOqE>

11.30 高浜全国集会に、ご参加、ご支援いただきました皆様、ありがとうございました。

(集会では、185,547円の温かいカンパを戴きました。感謝申し上げ、活用させていただきます。)

2025年12月4日 老朽原発うごかすな！実行委員会
連絡先 090-1965-7102 (木原)

にのめりこむ関西電力に NO を突きつけ、原発全廃への決断求め、自然エネルギーへの完全転換、人や環境が大切にされる社会を目指して前進することを、ここに宣言します。

2025年11月30日 「原発つづけるための乾式貯蔵 NO！
全国集会@高浜」参加者一同